

地域再生計画

1. 地域再生計画の名称

国見の宝(地域資源)を活かした農業・林業・観光を支えるみちネットワーク計画

2. 地域再生計画の作成主体の名称

福島県及び福島県伊達郡国見町

3. 地域再生計画の区域

福島県伊達郡国見町の全域

4. 地域再生計画の目標

4-1 地域の現状

国見町は、福島県の中央北部に位置し、北は宮城県白石市、東南は伊達市、西は桑折町に隣接している。県都福島市からは 16.5km の距離にあり、仙台市、山形市、郡山市にはそれぞれ 60km 圏内の距離にある。本町の面積は 3,795ha で、その内、37%の 1,400ha を林野が占めている。又平野部では、堆積した凝灰岩類に由来する粘土層が広く分布し、肥沃な大地が農業を支えている。

本町の総人口は、1950 年(昭和 25 年)の 15,629 人をピークに減少傾向にあります。2015 年(平成 27 年)の国勢調査で 9,512 人であった人口は、2020 年(令和 2 年)の調査では 8,644 人となっており、急速に減少が進行している。国立社会保障・人口問題研究所の人口推計において、2040 年(令和 22 年)には 6,252 人になるとされている。

国見町の基幹産業は農業で、果樹、水稻など風土に適した農産物が盛んに生産されている。農業産出額では果樹が突出しており、中でも桃は全国でも上位の出荷量を誇っている。森林資源の整備状況を見ると、人工林面積は 636ha で、人工林率は 45.4%となっており県平均を上回っている。農業従事者については、全国平均及び福島県平均よりも年齢層が高く高齢化が著しく進んでおり、後継者不足が課題となっている。

国見町へのアクセスはJR東北本線、東北縦貫自動車道及び国道4号の幹線道路が縦貫しており、都市圏からのアクセスは容易である。町の中心部には「道の駅国見あつかしの郷」があり、年間約 150 万人が来場するなど、国見町への誘客を増やしている。国見町には、町内各地に文化財や歴史的建造物などがあり、「道の駅国見あつかしの郷」や「あつかし歴史館」を中心に歴史を活かしたまちづくりを進めている。

令和3年度に策定した「第6次国見町総合計画」において、農林業、観光については、最も力を入れている分野の一つに位置付けられており、「恵まれた資源を生かしたまちづくり」を目標に取組みを推進している。

4-2 地域の課題

国見町では、「道の駅あつかしの郷」、「あつかし歴史館」、「あつかし千年公園」と町のシンボルである「あつかし山」にちなんだ施設が相次いでオープンし、「あつかし」の名前が広く認知されてきており、あつかし山周辺の史跡や自然を観光資源としたまちづくりを進めているものの、幹線道路から観光拠点までのアクセスルートとなっている町道、林道においては整備課題や、経年劣化による路面の亀裂や轍掘れなどが進

行しており、道路機能の低下による安全安心な車両通行に支障を来している。また、路面状況の悪化により、農産物の輸送の際に荷傷みが生じるなど農業の衰退を招く要因の一つになっている。林道においては、県北地方を一望できるあつかし山山頂へアクセスする車両の安全確保や、林道周辺の史跡を巡る森林散策者の快適性の向上など入り込み者の増加に伴う環境整備が問題となっている。

このような状況を踏まえ、町道と林道を一体的に整備することで、観光の活性化を図るとともに、農林業の再生・活性化を推進していく必要がある。

人口減少は地域の基幹産業にも影響し、このままでは地域経済の衰退が懸念される。農林業では、担い手の高齢化や後継者不足をもたらしている。若者や転職希望者が選択し得る魅力ある職業の一つになるよう持続可能なものとするには、「農林業」と「観光業」といった地域資源を組み合わせ、新たな価値を創造する必要がある。

4-3 計画の目標

こうした状況を踏まえ、国見町では地方創生道整備推進交付金を活用し、林道と町道を一体的に整備することにより林業再生を図るとともに、農産物や加工品の品質低下を防ぎ、生産等拠点施設間の連携を強化したい。また、緊急輸送道路へとつながる路線を整備することにより、地域間の安全安心を確保しつつ、豊富な歴史的資源への広域的ネットワークを快適な環境としたい。

地域資源を生かした農林業関連産業の発展、観光の活性化及び生活環境の改善により、持続可能な地域づくりを目指す。

(目標 1) 観光交流拠点の活性化

(あつかし歴史館の年間利用者数の増加)

2,100 人(令和 3 年度) → 2,760 人(令和 9 年度)

(目標 2) 観光交流拠点の活性化

(林道阿津賀志線の年間利用者数の増加)

1,100 人(令和 2 年度) → 1,500 人(令和 9 年度)

(目標 3) 農業 6 次産業化の推進

(農産物年間販売額の増加)

13.8 億円(令和 2 年度) → 14.1 億円(令和 9 年度)

5. 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

町道 4 号線、町道 5014 号線は、保全対策を実施することで、農産物や加工品の品質低下を防ぎ、農業の活性化とともに交通の安全確保を図る。町道 117 号線は、保全対策を実施し、道路機能を回復させることで、商業の活性化と交通の安全確保を図る。これらの道路は第 1 次緊急輸送道路を結ぶ第 2 次緊急輸送道路として防災・安全上においても重要な役割を担っている。また、幹線道路から観光拠点を結ぶ重要な路線であり、豊富な地域の観光資源がネットワーク化されることで、観光客数の増加を図るとともに、地域住民の利便性の向上を図る。

林道阿津賀志線は保全対策を実施することで、観光、林業の骨格としての役割を担う道路機能を向上させる。観光資源へのアクセスを向上させ、観光振興を図るとともに、森林作業における安全な作業環境を確保することで、林業の生産活動を向上させ、林業振興を図る。

これらの町道と林道を一体的に整備することによって、農林産物流通の効率化を図るとともに、快適かつ安全な観光周遊による観光客数の増加が図れる。加えて、地域住民の利便性及び安全な生活環境が確保できることで、農林業の活性化さらには、国見町の人口増加といった道の整備をはじめとする地域再生に関する事業の政策効果を高めることが期待できる。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

(1)地方創生道整備推進交付金【A3008】

対象となる施設は以下のとおりで、整備箇所等については、事業開始に係る手続等を完了している。なお、整備箇所などについては、別添の整備箇所を示した図面による。

・町道 道路法に規定する町道に認定済み。()内は認定年月日。

- 町道 4号掘込・向本線 (昭和 61 年 3 月 7 日)
- 町道 117 号下三本木・金屋線 (昭和 61 年 3 月 7 日)
- 町道 5014 号原前・欠下線 (昭和 61 年 3 月 7 日)

・林道 森林法による福島県阿武隈川地域森林計画(令和 2 年 3 月変更)

林道阿津賀志線

[施設の種類] [事業主体]

- ・町道 国見町
- ・林道 福島県、国見町

[事業区域]

国見町

[事業期間]

- ・町道(令和 5 年度～令和 9 年度)
- ・林道(令和 6 年度～令和 9 年度)

[整備量及び事業費]

- ・町道4. 0km
 - ・林道0. 1km
- 林道の保全対策(保全整備)1 箇所
- ・総事業費 400, 000千円 (内交付金194, 000千円)
 - 町道 370, 000千円 (内交付金185, 000千円)

林道 30,000千円（内交付金 9,000千円）
 うち林道の保全対策 30,000千円（内交付金 9,000千円）

[事業の実施状況に関する客観的な指標及び評価の方法]

指標(KPI)	基準年 (R3)	R5	R6	R7	R8	R9
指標1 観光拠点までのアクセス改善 道の駅～阿津賀志山	15分	15分	15分	14分	14分	13分
指標1 観光拠点までのアクセス改善 道の駅～あつかし千年公園	10分	10分	9分	9分	8分	8分
指標2 観光交流の促進 道の駅の入込客数	1,526千人	1,540千人	1,545千人	1,550千人	1,560千人	1,560千人
指標3 町道施設の老朽化対策の推進 老朽化対策推進率	0%	23%	45%	68%	93%	100%

毎年度終了後に国見町の職員が必要な徹取調査を行い、速やかに状況を把握する。

[事業が先導的なものであると認められる理由]

(政策間連携)

町道及び林道を一体的に整備することにより個別に整備する場合に比べて、効率的かつ効果的に関連施設の利活用が図られ、観光振興や農林業振興といった地域再生の目標達成に資するとともに、整備に係る全体コストの減が期待できるという点で、先導的な事業となっている。

(デジタル社会の形成への寄与)

道路の維持管理にデジタル技術を活用することで、道路の安全安心を確保するとともに、効率的な維持管理体制の構築が期待できる。具体的には現在紙ベースで管理されている道路台帳を電子化することで、道路管理の適正化及び効率化、並びに住民サービスの向上を図ることとしており、デジタル社会の形成に寄与する事業となっている。

5-3 その他の事業

地域再生法による特別の措置を活用するほか、「国見の宝（地域資源）を活かした農業・林業・観光を支えるみちネットワーク計画」を達成するため、以下の事業を総合的かつ一体的に行うものとする。

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5－3－2 支援措置によるない独自の取組

(1)就農促進事業

内 容 農業の担い手の高齢化と後継者不足等に伴い、国の補助金等を活用した新規就農者の確保・育成に取組み、持続可能な農業が営まれるよう支援する。

実施主体 国見町

実施期間 令和 5 年 4 月～令和 10 年 3 月

(2)ふくしま森林再生事業

内 容 森林整備や林業生産活動が停滞している森林について、間伐材等の森林整備を行い、森林の有する多面的機能を維持増進することにより林業の再生・活性化を図る。

実施主体 国見町

実施期間 令和 5 年 4 月～令和 10 年 3 月

(3)森林環境保全整備事業

内 容 国見町森林整備計画に基づき、高齢林の搬出間伐、間伐材の利活用を実施するなど、計画的な森林整備を実施するとともに、森林保全の確保の推進、町の木であるアカマツの保全など町民のニーズに応じた多様な森林整備を推進する。

実施主体 国見町

実施期間 令和 5 年 4 月～令和 10 年 3 月

(4)観光拠点整備事業

内 容 道の駅国見に観光案内板の設置、道の駅国見のサイン表示多言語化を行う。

実施主体 国見町

実施期間 令和 4 年 4 月～令和 8 年 3 月

6. 計画期間

令和 5 年度～令和 9 年度

7. 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7－1 目標の達成状況に係る評価の手法

4に示す地域再生計画の目標については、計画期間中の中間年度及び計画年度終了後に、国見町が必要な調査を行い、速やかに状況を把握する。定量的な目標にかかわる基礎データは、国見町のデータを用い、中間評価、事後評価の際には、それぞれの収集方法から数値の集計を行うこと等により評価を行うこととする。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

	(基準年度)	(中間年度)	(最終目標)
目標1 あつかし歴史館来客数	(令和3年度) 2,100人/年	(令和7年度) 2,600人/年	(令和9年度) 2,760人/年
目標2 林道阿津賀志線来客数	(令和2年度) 1,100人/年	(令和7年度) 1,300人/年	(令和9年度) 1,500人/年
目標3 農産物販売額	(令和2年度) 13.8億円	(令和7年度) 14.0億円	(令和9年度) 14.1億円

(指標とする数値の収集方法)

項目	収集方法
あつかし歴史館来客数	国見町企画情報課より
林道阿津賀志線来客数	国見町建設課より
農産物販売額	国見町産業振興課より

・目標の達成状況以外の評価を行う内容

1. 事業の進捗状況
2. 総合的な評価や今後の方針

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

4に示す地域再生計画の目標については、中間評価及び事後評価の内容を速やかにインターネット(福島県及び国見町ホームページ)より公表する。